

<国際金融パネル>

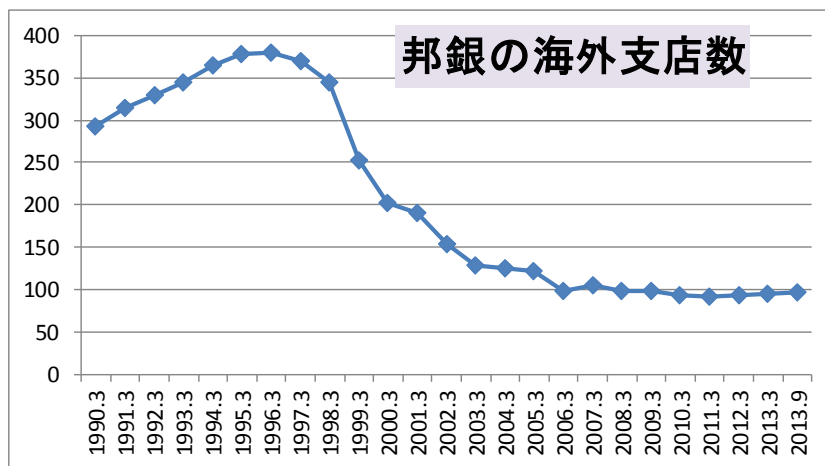
## 邦銀のアジア進出

座長 神戸大学 家森信善

<パネルの趣旨>

1980年代の後半に我が国の金融機関は、積極的な海外展開を行った。特に、アメリカやヨーロッパといった国際金融の中心地への進出が盛んとなり、都市銀行ばかりか地域銀行も数多くの海外拠点を展開した。図に示したように、1996年3月には邦銀の海外支店数は380に達した。しかし、1990年代の後半以降、不良債権問題が深刻化し、金融機関の統廃合が進み、また海外業務から撤退する金融機関も相次ぎ、2011年3月には海外支店数は92にまで落ち込み、ピークの4分の1以下に減少した。ところが、2012年以降、トレンドに変化が見られる。大企業はもちろんのこと中小企業にまで国際展開が広がり、それにあわせて地域金融機関も再び国際展開に力を入れるようになってきたのである。ただし、今回の国際化は国際金融センターへの進出ではなく、顧客の進出先であるアジア地域が中心となっているようである。もちろん、海外展開には様々なリスクがあり、その成否は地域金融機関の今後の命運に深く影響すると考えられる。現在、地域金融機関の2度目の国際化はまだ緒に就いたところであり、課題が山積している。

そこで、本パネルでは、まず、アジア展開を精力的に進められている山口銀行の福田浩一頭取に、山口銀行のアジア進出の現状と課題についてご講演をいただく。その後、神戸大学の岩壺健太郎教授と東北学院大学の伊鹿倉正司准教授に、研究者の観点から、現在進行中の邦銀のアジア展開についての分析結果を紹介していただくことにしたい。



(出所)全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」各年版。